

引き続き足踏み状態

しがきん経済文化センター(産業市場調査部)



高時川の鯉のぼり/長浜市

県内景気の動向

現状 県内製造業の生産活動を鉱工業生産指数で見ると、原指数は2か月連続の低下、一方、季節調整済指数は2か月ぶりの上昇となったが小幅にとどまったため、季節調整済指数の3か月移動平均値は3か月連続で低下し伸び悩んでいる。

需要面では、百貨店・スーパー販売額は衣料品と身の回り品が引き続きマイナスとなっているが、飲食品や家電機器などが堅調に推移しているため、全店ベースでは3か月ぶり、既存店ベースでは2か月連続で前年を上回り、また、大型店の中のドラッグストアの販売額は10か月連続のプラスとなり堅調に推移し、家電大型専門店、ホームセンターの販売額もプラスに転じた。さらに、新設住宅着工戸数は分譲住宅が前月に続き前年を大きく上回ったため、全体では3か月ぶりの大幅プラスとなった。一方、民間設備投資の指標である民間非居住用建築着工床面積は、全体では6か月ぶりに前年を大きく上回ったものの、これは前年同月が低水準だったためで、水準自体は低い。また、乗用車の新車登録台数は2か月ぶりに前年を下回り、軽乗用車の販売台数も5か月連続の大幅マイナス、公共工事の請負金額は前月に続き大幅の減少となった。

このような中、雇用情勢をみると、新規求人数は9か月連続かつ二ケタのプラスとなり、新規求職者数は2か月ぶりに前年を上回ったものの小幅にとどまったため、新規求人倍率は前月に比べ低下したが、有効求人倍率は上昇した。

また、2月に実施した「県内企業動向調査」によると、今回調査(1-3月期)での自社の業況判断DIは-16で、前回(15年10-12月期)の-4から12ポイント低下し、3四半期ぶりにマイナス幅が拡大した。3か月後は1ポイント低下の-17と、さらに悪化する見通しとなった。

これらの状況をまとめると、製造業の生産活動は引き続き伸び悩みの状態にあり、需要面では

堅調な動きも一部で見られるものの、全体的に弱含みの状態が続いており、企業の業況感も悪化している。したがって県内景気の現状は、緩やかな回復基調にはあるものの、引き続き足踏み状態にある。

今後の動向 県内製造業の生産活動については、停滞感のみられる国内需要に加え、中国経済や新興国の景気減速、急速な円高などの影響から、内・外需ともに弱含みで推移するものとみられる。また、需要面では、個人消費についてはエネルギー価格の低下によるマインドの改善効果はあるものの、景気の先行き不透明感、家計収入の伸び悩み、株安に伴うマインドの悪化といった懸念材料が根強いこと、全体に力強さに欠けた展開になると考えられる。また、民間設備投資や新設住宅着工などの投資関連では金利低下の効果については限定的とみられ、全体をけん引するだけの力強さはなく、全体に弱含みの推移にとどまると考えられる。したがって今後の県内景気は、緩やかな回復基調にはあるが、弱含みの足踏み状態が続くものと考えられる。

京滋の景気動向

京都府・滋賀県の景気は、新興国経済減速の影響などから輸出・生産面に鈍さがみられるものの、基調としては回復を続けている。

個人消費は、緩やかに持ち直している。設備投資は、緩やかに増加している。住宅投資は、持ち直しつつある。公共投資は、減少している。生産は、増勢が鈍化しており、輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。労働需給は引き続き改善しており、雇用者所得も緩やかに増加している。

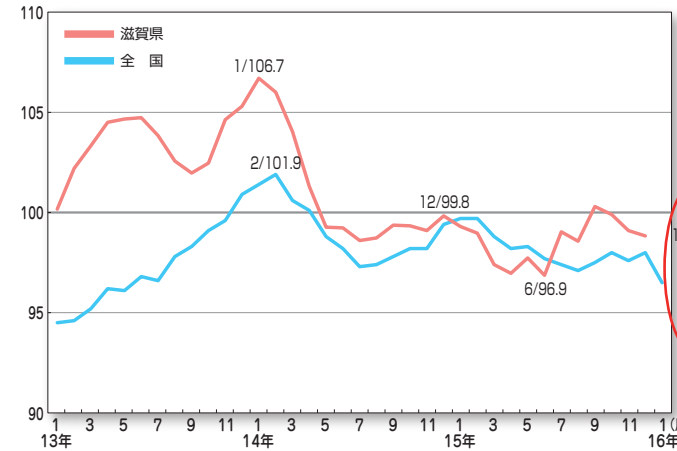
3月短観における全産業の業況判断D.I.は、前回調査に比べて「良い超」幅が縮小している。【日本銀行京都支店：「管内金融経済概況」(4月13日発表)より】

「鉱工業生産指数」の3か月移動平均値は3か月連続の低下

2016年1月の県内製造業の生産状況をみると、鉱工業生産指数(2010年=100)の「原指数」は86.8、前年同月比-4.0%で2か月連続の低下となったものの、「季節調整済指数」は100.1、前月比+4.9%で2か月ぶりの上昇となった。しかし、季節調整済指数の3か月移動平均値(2015年12月)は98.8、前月比-0.3%と、3か月連続の低下となっている。業種別(中分類)に季節調整済指数の水準をみると、「電気機械」や「化学」「食料品」「その他」などは高水準となったものの、「鉄鋼」や「窯業・土石製品」などの水準は低い。前月と比べると、「電気機械」や「化学」「食料品」などは大幅の上昇となったが、「はん用・生産用・業務用機械」や「パルプ・紙・紙加工品」「繊維」などは低下。

生産状況の先行きをあらわす「出荷指数」と「在庫指数(製品在庫)」を前年比で見ると、出荷は2か月連続の低下(原指数85.4、前年同月比-4.9%)、在庫は7か月連続の低下となっている(同112.2、同-5.4%)。

鉱工業生産指数の3か月移動平均値の推移(季節調整済値、2010年=100)

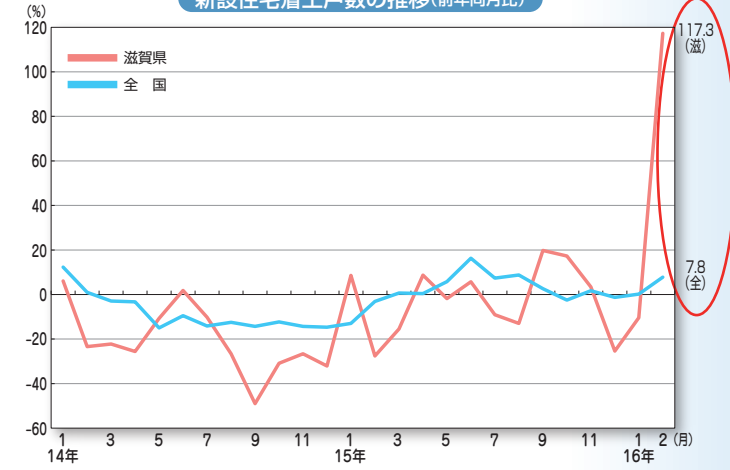


「新設住宅着工戸数」は3か月ぶりの大幅プラス

2月の「新設住宅着工戸数」は1,054戸、前年同月比+117.3%で、3か月ぶりの大幅プラスとなった。利用関係別で見ると、「貸家」は140戸、同-10.3%(彦根市27戸など)で3か月連続の大幅マイナスとなったものの、「持家」は304戸、同+13.4%(大津市60戸など)で3か月ぶりのプラス、「分譲住宅」は610戸、同+916.7%(大津市521戸など)で高水準かつ大幅のプラスとなった。分譲住宅の内訳をみると、「一戸建て」は前月に続き前年を大きく上回り(113

戸、前年差+53戸)、「分譲マンション」も高水準となった(497戸、同+497戸)。なお、「給与住宅」は3か月連続で申請がなかった。

新設住宅着工戸数の推移(前年同月比)

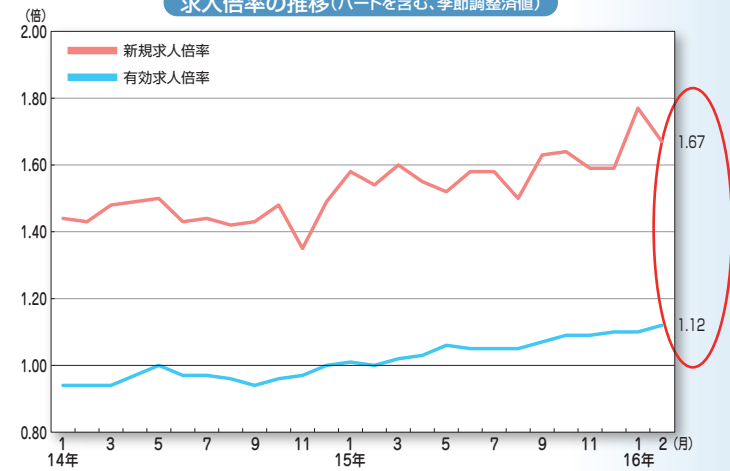


「有効求人倍率」は前月比上昇

2月の「新規求人数(パートを含む)」は12,018人(前年同月比+10.4%)で9か月連続かつ二ケタのプラス、「新規求職者数(同)」は7,133人(同+4.3%)で2か月ぶりに前年を上回った。これらの結果、「新規求人倍率(パートを含む、季節調整済値)」は前月に比べ低下(-0.10ポイント)の1.67倍だが、「有効求人倍率(同)」は上昇(+0.02ポイント)の1.12倍となった。

また、2月の産業別「新規求人数」をみると、すべての業種で前年を上回り、「医療、福祉」(2,292人、同+24.2%)と「卸売・小売業」(1,265人、同+17.7%)がともに5か月連続かつ大幅のプラス、「建設業」(450人、同+8.4%)は3か月連続のプラス、「サービス業」(1,521人、同+8.2%)と「製造業」(1,362人、同+2.3%)は2か月ぶりのプラスとなった。

求人倍率の推移(パートを含む、季節調整済値)



県内景気 天気図

現在の景気	生産活動
個人消費	民間設備投資
住宅投資	公共投資
雇用情勢	3か月後の景気

凡例

- 晴れ
- 晴れ一時曇り
- 曇り
- 曇り一時雨
- 雨

前月比

- 上昇・好転
- 横ばい
- 下降・悪化